

常栄寺庭園

雪舟庭は常栄寺の境内にある有名な回遊式庭園です。島、山、滝を表す石組みのある枯山水で有名です。この庭園は日本で最も卓越した水墨山水画家の一人である禅僧、雪舟（1420 年－1506 年）によって設計されたと考えられています。雪舟は力強い線と様々な陰影を使って風景に奥行きを生み出しました。雪舟庭の石の形、配置、規模も同様の効果をもたらします。

庭園は「心」の字に似た形の池を中心に構成されています。幸運と長寿を表す縁起の良い動物である亀と鶴の形をした島を模した石が水中に配置されています。池の畔や池を囲む緩やかな起伏の芝生にも石が配置されています。雪舟庭の中央の敷地には木々がなく一般的な回遊式庭園とは異なります。木々がないことで石の配置に焦点が当てられ、その結果、庭園に深みが増し、より広く感じるようになっています。

広大な敷地には森林に覆われた山腹と 3 つの池があり、そのうちの 1 つはモリアオガエルの繁殖地になっています。このカエルは日本の在来種で水面に張り出した木や植物に産卵します。4 月から 7 月にかけて紫明池周辺で枝にぶら下がっているカエルの泡状の巣を見つけることができます。中央庭園の周りを周回する遊歩道があり紫明池を通り過ぎます。1 周するのに約 30 分かかります。池の近くの脇道は山腹を上って世界の四方を悪から守る四天王の 1 人である毘沙門天を祀る拝殿へ続いています。

庭園へは少額の入場料が必要です。土日祝日には本堂横の茶室で抹茶を提供することもあります。秋には夕暮れ時に庭園の一部がライトアップされ、紅葉を楽しむことができます。